

平成19年度

仙台市放課後子ども教室モデル事業報告書



平成20年3月

仙台市放課後子ども教室モデル事業実行委員会

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

1	あいさつ	
	仙台市放課後子ども教室モデル事業実行委員会 委員長 山川由紀子	2
2	教室報告	
	① 西中田コミュニティスクール（通称：こみこみスクール）	4
	② わいわいパーク黒松	6
	③ ミューズ・かのっこ広場	8
	④ 住吉台小学校放課後子ども教室「住吉だいつ子」	10
	⑤ 将監けやきっこ放課後教室	12
	⑥ つるまきっず わくわくクラブ	14
	⑦ やしおキッズ	16
3	仙台市放課後子ども教室モデル事業を終えて	
	学校と地域の融合教育研究会	18
4	資料1	
	「平成19年度仙台市放課後子ども教室モデル事業」に関するアンケート	19
5	資料2	
	仙台市放課後子ども教室モデル事業総括会議より	21

＝ 仙台市放課後子ども教室モデル事業のホームページ ＝

本事業の内容をお伝えしたり、各教室間の情報共有を図るためにホームページを公開しています。

こちらもぜひご覧下さい。

<http://www2.zundanet.co.jp/kodomo/>



仙台市放課後子ども教室モデル事業実行委員会
委員長 山 川 由紀子

『究極の目的は、本年度の放課後子ども教室実施率ゼロ%の仙台市が、来年度以降、確信を持って心安じて本格的実施に踏み出す先導的役割を果たすことにある。今回の各モデル事業に協力する各団体は、これまで培われた地域の教育力を十分に発揮し、それぞれの学区内に埋もれているあらゆる団体、学習指導技能を有する個人等を発掘し、その持てる力を存分に駆使して新たなプログラムの開発を実現し、地域ぐるみで子ども達の安全・安心を守り、異世代間の交流を活性化し、子育て支援に関心を高めさせるための活動を展開し、放課後子ども教室事業の完全定着化を図るとともに、安定的な児童館との連携活動を推進し、次年度以降これを仙台市内全域に普及させるため、全市民が挙げて放課後子どもプランに対する理解を深め、まちづくり運動の一環として協働して活動できる基盤整備を企画するするとともに、全市域の小学校区にコーディネーター配置が可能となるようその養成活動を着実に実施する。』

昨年8月から始まった「仙台市放課後子ども教室モデル事業」が2月末をもって終了しました。冒頭の文章は、このモデル事業の実施に向け非常な熱意を持って取り組まれ、事業開始を待たずに他界された前実行委員長 庄子平弥さんが、文部科学省に提出された事業計画書から

引用させていただきました。

絶対的なリーダーとして事業を引っ張って行かれるはずの庄子さんを亡くし、一時は呆然とした私たちでしたが、大きな事故や支障もなく無事に事業を終えることができましたのも、研修会講師として豊富な体験事例を元にご講話いただいた「学校と地域の融合教育研究会」宮崎稔会長始め、関係各位のご指導、ご鞭撻によるものと心より御礼を申し上げます。

さて、今回のモデル事業に参加した教室のうちいくつかは、平成16年度より緊急三ヶ年事業として実施された文部科学省「地域子ども教室推進事業」の委託を受け、すでに活動していた教室です。この事業が、当時子どもたちが関わる事件が多発、重大化していることから、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育つ環境をつくり、多くの目で子どもたちを見守ることを目的としているのは周知のことですが、緊急事業として行われたにもかかわらず、委託期間の終了後、地域に根付いて活動を続けられた教室は決して多くはなく、目的達成に至るには、事業の長期にわたる継続が必要なことが見えてきました。

19年度からは厚生労働省との連携により「放課後子どもプラン」が創設されましたが、冒頭の庄子さんの文章にもあるように、仙台市では

児童館を主体とした放課後児童健全育成事業が重点的に行われ、放課後子ども教室の全市での実施が難しい状況にあります。

今回のモデル事業では、七つの教室がそれぞれの地域性を生かし、放課後子どもたちの安全・安心な居場所づくりのため、多様な取り組みを展開しました。

もともと活動が行われていた教室では、このモデル事業に参加することで、新たな取り組みや地域内の施設・団体との連携を深めるなど活動の幅を広げ、今回新たに活動を始めた教室でも、地域の人材を生かした活動や、保護者等の学習アドバイザーによる学習支援、また学校の先生方も講師として参画する取り組みなど積極的に活動することができました。

特筆すべきは、どの活動もコーディネーターとして地域の人材が活動の中心を担っていたことです。PTA活動のOB・OGが、自分の子どもたちの卒業後もこのような地域活動に関わることで、保護者と地域、学校と地域をつなぐ役割を務めリーダーシップを発揮できることが分かりました。

児童館のように専門職員がいない状況でも、地域の人材を生かした体験活動や学習アドバイザーによる学習の支援、また保護者等の指導員による遊びやスポーツ、ゲームなどにより、子

どもたちが安心して過ごせる放課後の活動場所として有効であることを示し、今後の仙台市の放課後子どもプランに新しい方向性を見出すことができたと考えます。

また、学校施設を利用させていただくことは、現在の学校運営にとって欠かせない学校と地域の連携、開かれた学校づくりのため、地域の人材の発掘や新しい世代間交流、そして何より多くの地域住民が学校に足を運ぶことにつながり、ひいては地域の教育力向上に寄与することが考えられます。

わずか七ヶ月のモデル事業ではありましたが、関わった大人たちは、自分たちでも何かできると手応えを感じ始めています。未来を担う子どもたちのために、自分も何かしたいと思っている地域の大人がたくさんいることも分かりました。多くの人が、社会が落ち着かず不安が渦巻く今だからこそ、地域の力を集めて一緒に子どもを育てることが必要と感じています。

最後に、各教室の会場となった学校のご理解とご支援、各地域の皆さまの多大なご協力に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



9、10月に開催した柳生和紙の講座
(柳生市民センター・柳生和紙プロジェクト共催)

開催地：仙台市太白区西中田
利用施設：仙台市立西中田小学校
開催日：毎週水曜放課後・土曜午前午後
開催回数：57回
参加者：登録者数230名、延べ2,434名
指導者：登録者数45名、延べ639名
主な活動：参加自由な子どもの居場所づくりと、地域ボランティア講師による子どもたちの活動支援（囲碁・百人一首・書道・手芸・フラワーアレンジ・ビーズ・パソコン・合唱ほか）、地域教育施設（市民センター・児童館・中学校）との共催事業

教室の特徴：4年前より地域が主体となって学校内に設置した事務局で運営、地域の理解と協力は大きく、支援体制もできている。

「西中田コミュニティスクール」は、平成16年5月に、文部科学省の委託による『地域子ども教室』として開講した。

活動場所の西中田小学校は、一時は児童数が1,300名を超える大規模校で、現在も800名弱の児童が在籍し余裕教室はないが、増築された北校舎に2つの多目的室と、音楽室・理科室・コンピュータ室・生活科室等があり、それらを開放していただき活動を行っている。

活動日は、主に水曜日の放課後と土曜日で、長期休業中も季節に合わせた活動を企画し開催した。水曜日の放課後は、1、2年生が4時間、他の学年は5時間と授業の終了時間がずれるため、待合室を設けて1、2年生が活動までの時間を過ごせるようにしている。

水曜日放課後の「こみこみルーム」「うたはともだち」の二つは、申し込みの必要がなく自由に参加できる場所である。

「こみこみルーム」は他の参加者に迷惑になること以外は規制せず、子どもたちが自由に過ごせる部屋として開設した。これまでも、教員を目指す大学生がボランティアとして参加していたが、今回のモデル事業では、子どもたちが宿題や自主学習をするときのアドバイザーとして学生を配置し、子どもたちの学習支援を試みた。同じく自由参加の「うたはともだち」は、

4年前の立ち上げ時からご協力いただいている学校近隣のピアノ教師の方が、経済的に余裕のない家庭の子どもたちにも音楽の楽しさを教えたいと開いているものである。特に低学年の子どもたちが、学年を超えて音楽活動や手遊び、紙芝居などの活動で、表現力を高めていることが感じられ、地域での発表の場でも、堂々とした演奏で会場から大きな拍手をもらうまでになった。

活動の主体である、地域ボランティアを講師とする講座は、年間を通して活動する継続型と毎回参加者を募集する単発型に分かれ、継続型は書道・囲碁・百人一首・フラワーアレンジ・手芸・合唱、単発型はビーズでアクセサリー・トールペイント・パソコンであそぼうなど、多様な活動を行っている。どちらも事前に連絡先等を記入した申込書を提出し、登録したうえで参加する。

講座を支える講師は、公募や推薦、個人的なつながりからの依頼などによりご協力いただいているが、どの講座も熱意を持って運営され継続していることは、運営スタッフにとって大変心強く、事業推進の大きな力を担っている。講師の方々は、町内会など地域活動にも参画されている方が多く、「こみこみスクール」の活動について地域への広報や理解浸透に、大変大き



一番人気のビーズでアクセサリ



夏休み勉強室



冬休み 硬筆練習会

な役割を担っていただいている。

また長期休業中は、夏休み中に学習課題を解決するための「夏休み勉強室」、冬休みは書き初めの「硬筆練習会」を開催するなど、季節に合わせて企画を考えた。

活動のもう一つの柱が、地域の教育施設や諸団体との連携事業である。

立ち上げ当初から、地元で活動する太鼓クラブやYOSAKOIグループ、おやじの会の方々の協力で、連携した活動を行っていた。加えて、二年前より「柳生市民センター」との連携事業が始まり、さらに市民センター主催事業への子どもたちの参加や出演、またスタッフや学生ボランティアが市民センターの活動に協力をするなど連携を強めている。

今年度は「柳生中学校」が地域連携事業として行っている開放講座について、運営事務の補助、申し込みの窓口となるなど、共催団体として活動を支援することになった。また、中学校の校長先生が「こみこみスクール」の講師を務めるなど新しい試みも始まっている。今後は、中学生のボランティアとしての参加や小学校での開放講座の実施など、ますます連携を深めることを検討しており、活動の中でこれまで以上に多様な年代が交流する可能性が見えてきた。

また、モデル事業の中で児童館との連携事業

も行った。児童クラブに入っている子どもたちが、自由にこみこみスクールに参加できないという声を聞いたことから、児童館の館長、職員の方にも協力いただき、児童クラブの子は児童館側で把握し、活動後は児童館に引率して戻ることによって問題を解決できた。ただ、児童館側も職員数に余裕がなく、今後頻繁にこのような活動を行うことは難しいと思われる。

順調に進めてきた活動だが課題も抱えている。

学習支援を目指した学習アドバイザーの配置だが、学習をする子どもの数が増えず、「こみこみルーム」という場は子どもたちにとって遊びの場であって、学習の場は独立して設置する必要を感じた。

また、講座についてはアンケート調査等でもスポーツ系の講座を求める意見が多数あるなど、講座の種類に偏りがあることは否めない。女の子が参加する講座は多いのに、男の子が参加できるものが少ないことについては、毎年検討はするものの解決できないでいる。講師として協力できる方に女性が多く、スポーツの指導者はスポーツ少年団の指導など多忙であること、活動の場所が校舎内に限られていることからスペース的に難しいなどの課題がある。さらに検討したい。



開催地：宮城県仙台市泉区黒松
 利用施設：仙台市立黒松小学校
 開催日：水・土曜日・夏休み・冬休み
 開催回数：39回
 登録者数：204名・年間延1,274名
 指導者：49名・年間延べ274名
 主な活動：子ども自身が自由に遊ぶ自由広場、卓球などのスポーツパーク、体育館自由開放、多彩な遊び教室
 教室の特徴：共催：黒松市民センター、
 協力：黒松小学校、黒松児童館、PTA、黒松校区子ども会育成会、黒松社会学級
 地域諸団体と連携し保護者を中心に子どもの居場所、子どもと大人の交流の場を作る。

平成17年11月に試行として始まったわいわいパーク黒松。今年度は、放課後子ども教室モデル事業に参画し、より充実した活動となった。安全に、異学年の子ども同士が関わり合い、多彩な遊びの経験が出来る、多くの地域の人との交流の中で大人も子どもも共に学び多くの価値観に出会い、育ち合う場として楽しく活動している。

★子育て支援・児童館協力★黒松校区では児童数の増加により、児童館の児童クラブに3年生が通えないという実態があった。わいわいパークに参加するお母さま方から「子ども教室に通うと子どもを少しでも留守番させないで済むし安心」という声が多く寄せられていたためモデル事業の意義の一つとして、児童館待機児童の受け入れを決めた。黒松小学校の児童1～3年生で保護者、特に母親が就業しているお子様を対象に、登録制で教室定員の1/3を目安に募集した。その結果、今年度は16名のお子さまが毎回元気に参加している。

♪♪ 自由広場 ♪♪子ども自身が好きなことを決めて好きな相手と自由に遊ぶ日。将棋やオセロ、チェスやトランプ、絵描き、塗り絵、ドミノと自由な遊びが繰り広げられている。クラスや学年を越え同じ遊びを通して関わる中で、新しい友達が出来た、片付けや掃除など自分たちで取り組む意識が出てきた、遊べない子ども

に回りの子どもが教えてあげた、遊びをリードしたりズルイ子どもに注意するボスの存在の子どもが出て来たなど様々な変化が生まれて来た。遊びの上手い子や得意な子のことを認めてあげたことで、反対に自分の好きなこと得意なこと自信をつけ活発になった子どもも居る。遊びの勝ち負けやケンカのトラブルでは、互いに言い分を聞く、譲り合う、順番を決めるなど、大人にすぐ言いつけるのではなく子供同士で解決しようとする動きも出てきた。互いに協力して遊びを続ける試行錯誤がいっぱいである。顔なじみになったボランティアや大人を自分から遊びに誘う子どもも居る。自由広場はこのように、関わり合いの中から遊び方や社会のルール、コミュニケーションの仕方を少しずつ体験し学んでいける良い機会になっている。

◆◆体育館自由開放・黒松小学校施設管理

運営委員会協力◆◆PTA主催だった“安全な遊び場の提供”を2年続けてわいわいパークで実施している。土曜日を中心に体育館を開放し、大人も子どもも入り口で氏名、住所、入退室時間などを用紙に記入。ボランティアは首に笛をかけ、危ない遊びや不審者の侵入に注意を払う一方、子どもに誘われて遊びの輪に加わることもある。公園と同様に友達や家族と誘い合って遊びに来る気軽さが良いのか、親子連れ、兄弟姉妹、友達、幼児、そしてお父さんの姿も多



い。また、放課後は授業が長いいため参加が少ない6年生がたくさん参加してくれることも特徴となっている。ドッジボールやバスケット、なわとびなど思い思いに楽しんでいる。

◆◆学習アドバイザー◆◆以前から『自由広場は宿題をしても何をしていても自由』と銘打っていた所、集まって来た子どもたちが自主的に宿題をするようになっていた。モデル事業の一環として、宿題、自主学習の支援のため学習アドバイザーを導入した。両手を広げて数える1年生、乱雑な字、練り上がり計算の間違いなど、アドバイザーの出番は意外に多い。退職教員、有資格者、教職を履修中の大学生、5年生以上の保護者など9名が交替で担当している。

★多彩な遊び講座・市民センター協力★

低学年は初めての調理に目が輝くおやつ作り。地域の達人の人気マジック。趣味を生かしお母さん方が講師として登場する手芸、クラフト。七夕作りやお正月遊び（すごろく、羽子板、福笑いなど）伝承遊び（こま、剣玉、おはじき、あやとり）は毎年恒例の遊び。手作りおもちゃは簡単で楽しく作って、その後それでいっぱい遊べるのが人気。パソコン、ヨガ、集団遊び、手話などは定員を上回る申し込みが有り、同じものを何回も実施するなど工夫している。大人も子どもも多彩な遊びを楽しんでいる。

◆スポーツパーク・体育指導員協力◆放課後に

体育館などで一輪車、バドミントン、バスケット、卓球などの運動遊び。当たり面が大きい下敷きを使用した卓球は、低学年や保護者と一緒に参加した幼稚園児（児童の兄弟）も楽しめる。勝手に新ルールが登場？情け容赦ないスマッシュもどき、壁や床も駆使し大人も子どもも歓声を上げながら遊んでいる。★★今年度は、モデル事業になったことで、学校や児童館、市民センターなどとの連携がより進んだことは大きな収穫であった。また、活動3年目に入り、子どもの縦と横の関係・つながりが少しずつ見えてきた、色々な子どもが集まり出会った子ども同士で遊ぶ場所だという、子どもの認識が出来てきた、大人からの声がけや遊びへの参加に対して臆せず自然に受け入れむしろ喜んで遊ぼうとするなど、交流の場所としての基礎が見えてきたと思われる。子どもも大人も遊び場や安全面、子どもの遊びや経験を広げる、友達関係、子供同士や大人との触れ合い、子育てや子どもへの理解、大人自身の楽しみなど、多様なメリットや楽しみを感じているようだ。たくさんの子どもの笑顔に励まされながら、子どもと大人、社会を繋ぎ、子どもにとって心安らぐ楽しい居場所になるよう、スタッフ一同、放課後子ども教室の意義を一つ一つ確かめながら、運営していきたいと考えている。



開催地：宮城県仙台市太白区鹿野
 利用施設：仙台市立鹿野小学校
 開催日：月曜～土曜
 開催回数：74回
 参加者：登録者数63名・年間延べ1,112名
 指導者：登録者数35名・年間延べ370名
 主な活動：パソコンで音楽・ギターを弾こう・
 オカリナを吹こう・伝統太鼓・フラ
 ワーアレンジメント・いも煮会・バ
 ドミントン・リコーダを吹こう・切
 り絵作り・グランドゴルフ・ミュ
 ジックベル・さんしんを作ろう・他

教室の特徴：ものに触れさせる、ものを作らせる、
 ものを大切にする。楽器と触れ合っ
 て、触ってみて、聴いてみてわかる
 大切なもの。また、ものを作ってみ
 て分かる作る人の気持ち。音楽家の
 集団とかのっこボランティアと学校
 との融合から生まれたミュージズか
 のっこ広場。

ミュージズかのっこ広場は今年度も引続き仙台市立鹿野小学校を会場として貸して頂けることとなり、前年度同様精力的に活動を行いました。

音楽関係の活動は音楽室を、また物を作る、体を動かす、などの活動は視聴覚室・家庭科室・体育館・校庭などを使って活動しました。

今年度の内容は、仙台伝統支倉太鼓・リサイクルで楽器を作ろう・語りべの会・クリスマスケーキ作り・七夕飾りを作ろう・バランスボール・バドミントン・グランドゴルフ・もちつき・書道教室、パソコンで音楽作ろう・ギターを弾いてみよう・クラシックCDコンサート・生演奏コンサート・イギリスの丸いオカリナを吹こう・楽しくリコーダ・ミュージックベルアンサンブル・ドレミパイプ・ゲームで遊ぼう・工作タイム・お正月の折り紙・ビデオ観賞会・いも煮会・科学遊び・など非常に多岐に渡った多彩なものになりました。

中でも伝統太鼓は、昨年度から続けていることもあって、人前で発表出来るまでに上手になりました。地域のお祭りや学校の運動会などで盛んに演奏を披露しました。厳しい太鼓や踊りの練習にも大分慣れてきて、統率のとれた動きが普通になり、昨年とは見違えるように成長しました。科学遊びや工作タイムでは、下級生に

とってやや難しい時など、上級生が率先して下級生の手伝いをしたり指示をしたり出来るようになり、関係者を喜ばせてくれました。自分の周辺の事にしか興味を示さない傾向の強い現代の子供達にあって、このような動きは本当に素晴らしいことだと思います。

ビデオ鑑賞会や語り部の会では、うるさくなることもなくなり、ビデオやお話にじっと耳を傾けていました。方言なども多く入った話もありましたが、熱心に聞き入っていました。イギリスの丸いオカリナはとても人気がありました。毎回たくさんの希望者が集まり、中には自分でオカリナを購入する生徒もいました。押さえる穴が少ないこと、大きさが小さいことなどの理由で下級生にも手軽に楽しく演奏出来ました。ミュージックベルやドレミパイプでは、ボランティアの方達のお陰で統率がしっかりとれて活動が大変スムーズに進行しました。慣れない楽器でタイミングがとり難くても一生懸命に合わせようとしていました。またパソコンミュージックは、当初作曲を大きな目的としていましたが、その前の段階の音符の基礎の練習にかなりの時間がかかり、ごく簡単なメロディーの作曲に留まりました。でも自分で作った曲がパソコンやキーボードから流れてくるのを聞いて子供達は大喜びでした。

全体を通して感じたことは、活動を続ける



なかで、子供たちに伝えるべきことが本当に伝わっていくにはまだまだ時間がかかるということでした。会った時の挨拶・終わりの時の感謝の言葉・あるいは使ったものは自分で片づける・人のいやがることはしない・きれいだねと言葉に出す・うれしい時はにっこり笑うなどは、昨年度から重要と考え一種の目標としていた所ですが、なかなか定着せず、こちらが常に指示をしなければならないという状況はなかなか変化しませんでした。また、保護者の側の意識改革の必要性も今年度痛感させられました。

私たちの活動を、学校の授業の延長のようにとらえていたり、塾や習い事の感覚で保護者の側もすべてやってもらえるものという構えがほとんどでした。しかし、時間と共に違ってきたのは、子供達の目の輝きです。出来なかったことが出来たり、解らなかったことが解ったり、知らなかった新しいことを知った時など、純粹に心を開いて喜ぶ姿が多々見られるようになりました。また保護者の中にも活動の手伝いをしてくれる人も出てきました。まだまだ充分とは言える状況ではないと思いますが、すこしずつでもコミュニケーションが出来るようになってきた表れではないかと思っています。

また、スタートに当たってのオリエンテーションの徹底がさらに重要と感じました。子供だけでなく保護者達も与えられるということに

あまりに慣れ過ぎている現状に気付きながら、地域に居る大人の一人として出来ることから少しずつ行っていくということの意義を理解して欲しいと感じました。今年度も学校の協力を得て活動が実現しました。日ごろの学校の協力に感謝すると共に、先生方からも気軽に声をかけてくれることもできて、大変嬉しく思っています。

更に多くの先生方が私たちの活動に興味を持ち、理解を深めて下さることを切に願います。今年度の活動を終わって、今後も活動を希望する声が多数の保護者から聞かれ、スタッフもやっていたよかったという気持ちでいっぱいです。子どもたちは、学校の授業の中では先生方からは決して言われたいようなことを地域の人間から言われることで、少しずつ心に響いてくれるものが出てきたのではと感じている所です。

国や自治体からの助成の状況が不透明な中、今年度までのような内容・回数が維持出来るかどうか不安もありますが、来年度からも皆協力しあって活動を継続していけるように努力していきたいと考えています。

ウォークラリー

平成19年10月6日(土)
10:00~14:00



開催地：仙台市泉区住吉台
利用施設：住吉台小学校・コミュニティセンター
開催日：平成19年8月～平成20年2月
開催回数：58回
参加者：登録者数100名、年間延べ1,100名
指導者：登録者数30名、年間延べ250名
主な活動：図書室開放・和太鼓指導・歌
教室の特徴：火曜日わくわくタイム・住吉だいつ子
鼓・歌の学校という三つの教室を柱に活動しています。それぞれは独自の活動をしています、どの教室も地域との関わりを大切にしています。

(1) 事業のまとめ

地域での子どもの教育力が問われる今、学校や様々な人々の協力を得ながら、子ども達に安心して安全な居場所を提供すると共に、異世代、異文化の交流を行い、教育力のある地域づくりのためのネットワークづくりを目的に活動を行い4年目になります。今年度から「わくわくタイム」を設けたこともあり、子ども、大人双方に広がりを持っていましたが、事業を有意義にするにはもっと沢山の大人を巻き込む必要があると感じています。

(2) 事業の構成員・団体

- ・住吉台小学校
- ・住吉台小学校PTA
- ・地域ぐるみ健全育成協議会
- ・社会学級
- ・和太鼓クラブ(住吉だいつ鼓)
- ・主任児童委員
- ・住吉台小退職教諭

(3) 事業内容(教室)

- ①図書室開放「火曜わくわくタイム」
- ②太鼓「住吉だいつ鼓」
- ③歌の学校
- ④読み聞かせ
- ⑤ウォークラリー

(4) 本年度の活動

①図書室開放「火曜わくわくタイム」

日時：火曜日 15:00~16:20
場所：図書室
開催回数：20回
参加人数：1回約30人 のべ600人
内容：折り紙・ゲーム・あやとり
工作・プラ板・福笑い他

当初は工作や折り紙などをして、自由に過ごしていましたが、大人の人数が少ないと目が行き届かなくなるため、その日の内容をひとつに絞り担当制で行いました。

自由参加ですが、放課後の活動なので、親にも子どもの所在を認識してもらおうと、参加者は必ずカードに親の印鑑をもらってくることにしました。

あやとりでは子ども達の指の硬さに驚き、福笑いや坊主めくりの単純な遊びが、ゲーム世代の子ども達に大受けするのは意外でした。

子ども達の口コミで回を追うごとに参加者が増えていき、担当の大人2・3人では手が回らなくなり毎回関係者総出という状況でした。保護者へボランティアとしての協力を呼びかけましたが、ほとんど参加がなかったことが残念です。これは今後の大きな課題です。



②太鼓「住吉だい鼓」

日 時：土曜日 10：00～12：00
場 所：体育館
開催回数：22回
参加人数：1回約20人 のべ440人

「住吉だい鼓」そのものの活動は8年目になります。子どもの健全育成を目的に当時のPTA本部が中心となり会を結成しました。登録制で本年度の会員は小学校3年から6年まで18名。中学生7名。そして高校生1名。中学生高校生は小学生の指導もします。練習の成果は団地のイベント（夏祭り・新年会・地域コンサート等）で発表。毎年恒例となっているので地域の人達は楽しみにしてくれているし、子ども達は自慢に思っているようです。新曲や難しい曲にもどんどん挑戦しがります。中学生や高校生がカッコよく叩く姿をみているからでしょう。さらに今年度は教頭先生含め小学校の先生3名が参加してくれました。子ども達は大喜びでした。

③歌の学校

日 時：月1回土曜日 10：30～12：00
場 所：住吉台コミュニティセンター
開催回数：4回
参加人数：1回約16名 のべ64名

4年前に住吉台小学校を退職なさった先生が、最後に担任したクラスを母体に教室を開催。お世話しているのは当時の学年委員の皆さんです。歌を歌ったり、ピアノに合わせて踊ったり、走ったり。住吉台在住ではないのに、こうして関わって下さる先生の存在意義は大きいです。

④読み聞かせ

日 時：夏休み中 10：30～11：30
場 所：図書室
開催回数：11回
参加人数：1回約6～7人 のべ77人

小学校で毎週1回読み聞かせ活動を行っている社会学級読み聞かせグループが夏休みの図書室開放日に読み聞かせを行いました。

⑤ウォークラリー

年1回、小学校、コミュニティセンター、公園を会場に、ゲームやクイズに挑戦。今回3回目。たくさんの人、機関の協力を必要とするため、継続すれば地域づくりに貢献できる。本年度も校長・教頭先生・他3名の先生方が参加。

⑥その他

- ・「住吉だいつ子通信」「だい鼓通信」発行
- ・学校専用掲示板に写真等を用いて報告掲示

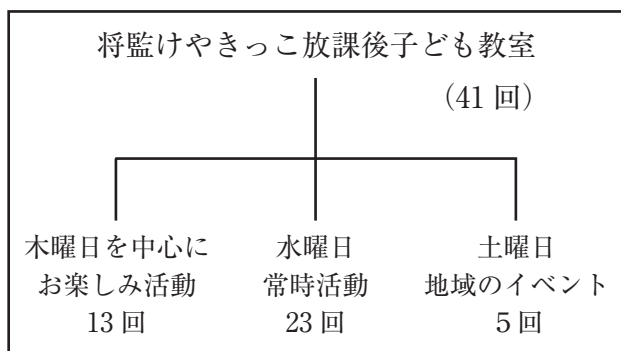


開催地：仙台泉区将監
 利用施設：仙台市立将監小学校
 開催日：毎週水曜日、木曜日、随時
 開催回数：41
 参加者：登録者数28名、年間延べ766名
 指導者：登録者数13名、年間延べ171名
 主な活動：常時活動、お楽しみ活動、イベント活動

教室の特徴：毎週水曜日の常時活動を教室の軸とし、木曜日のお楽しみ活動や土曜日に開催された地域のイベントに参加しながら教室を運営した。

1. 将監けやきっこ放課後子ども教室の概要

(1) 活動形態



将監けやきっこ放課後教室では毎週水曜日の「常時活動」を教室の軸にして、木曜日の「お楽しみ活動」や土曜日（日曜日も含む）に開催された地域のイベントに参加する形で延べ41回にわたる教室を開催してきた。

ア) 常時活動

毎週水曜日の午後2時30分から午後4時30分まで将監小学校内の「けやきっこ教室 ※1」を主な活動拠点として開催した。

【プログラムの例】

- 2:30 けやきっこ教室集合
出欠確認・あいさつ
自由活動(校庭や体育館での運動、遊び)
- 3:30 学習タイム(宿題や自主学習)
- 4:30 終了、解散

イ) お楽しみ活動

木曜日を中心に13回開催した。この活動は地域の人材や企業、NPOの協力のもとに実施した。

地域人材の発掘と有効活用、企業、NPOとの連携を視野に入れた試みでもあった。「講座の内容」によっては「けやきっこ教室」の登録メンバーに限らず、全校児童とその保護者を対象として実施したものもある。以下にその内容を示す。

	月 日	内 容
1	9/12	紙飛行機づくり
2	9/13	木の実のクラフト
3	10/10	モザイクタイルアート
4	10/27	廃油石けんづくり (NPO)
5	10/31	手作りチーズ (企業)
6	12/5	クリスマスリースづくり
7	12/12	クリスマスケーキづくり
8	12/15	書き初め練習会
9	12/26	そば打ち体験
10	1/24	お話の会 (ストーリーテリング)
11	1/30	寒天の料理実習 (企業)
12	2/7	はがき飛行機
13	2/21	飛び出す絵カード

ウ) 地域のイベント



クリスマスケーキづくり



寒天料理教室



そば打ち体験教室



←地域イベント
収穫祭

地域イベント→
ふるさと探検



将監地域には、「学びのコミュニティ推進事業」のための組織があり、関係8団体が連携し、児童の健全育成のためのイベントを開催している。

「将監けやきっこ放課後教室」も教室活動の一環として、地域イベントへの参加を計画に位置づけ、このイベントに積極的に参加した。

	月 日	イベント名
1	8/23	ふるさと探検
2	11/17	収穫祭
3	12/2	親子で秋を楽しもう
4	12/22	わら細工(しめ縄づくり)
5	2/23	凧づくり・凧あげ

(2) 運営組織

平成19年の5月から「放課後教室」の運営のための準備に入る。前PTA会長をコーディネーターに、現PTA役員、読み聞かせボランティア、学校評議員で運営委員を構成する。また、安全指導員として宮城教育大学の学生の協力を得る。

7月より、教室開催に向けて本格的に準備を開始し、8月23日の地域イベントから活動を開始する。常時活動は、夏休み明けから募集を開始し、9月12日(水)より教室活動を開始した。児童の募集については随時受け付けることにした。

運営会議は、月1回 水曜日の活動後に開催

し、活動反省および活動計画を立案した。

2. 活動の成果と課題

(1) 成果

30名弱の限られた児童数での運営ではあったが、地域の人々、ボランティアの方々、地域の企業、NPOの協力を得て教室を開催できたことの意義は大きい。

今回の取り組みを通して、児童の健全育成に対して、新たな人的ネットワークが構築され、企業・NPOとの連携を視野に入れた新たな「縁」が出来てきた。

既存の地域諸団体の協力が得られたこと。また学校施設を使用することで、教職員とのつながりも出来てきた。

(2) 課題

広報が不十分であり、地域全体に「放課後教室」の活動が伝わらなかった。

教室運営に関しても、学生ボランティアを含めた現体制では、今回の40回程度が限度であり、通年活動を見通した場合、運営委員の増大なくしての活動は困難である。児童の募集とともに運営委員の募集が喫緊の課題である。

※1 けやきっこ教室

普段は将監小学校の第2家庭科室となっており、放課後教室開催時のみに使用する。



開催地：宮城県仙台市宮城野区鶴巻
 利用施設：仙台市立鶴巻小学校
 仙台市鶴巻児童館，他
 開催日：火，水，金，土曜日
 開催回数：127回
 参加者：登録者数271名、年間延べ1,154名
 指導者：登録者数24名、年間延べ407名
 主な活動：①放課後や休日の子どもの居場所
 づくりの活動
 ②日本の文化に親しむ活動
 ③放課後の子どもの学習支援
 教室の特徴：共催：鶴巻小学校PTA，
 協力：鶴巻小学校，鶴巻児童館
 ・放課後の子どもの居場所や交流
 の場をつくる活動を行う。

I 目的

- (1) 地域各種団体が連携して放課後の子どもの安全な居場所を提供する。
- (2) 放課後の子どもに対する学習支援の場を提供する。

II 活動内容

(1) 放課後や休日の子どもの居場所づくり

- ◎スポーツをとおして子どもの健全育成を図る。
- ◎地域の読書支援ボランティアの協力を得て継続的に読書を支援する。

■スポパークつるまき～運動に親しもう

- ・土曜日午前中の体育館自由開放。
- ・バレーボールやバスケットボールを楽しむ。

■本に親しもう

- ・学校や児童館を会場に読書啓蒙活動を充実させる。
- ・読み聞かせやエプロンシアターをとおして読書の楽しさを伝える。

(2) 日本の文化に親しもう

- ◎日本の伝統文化にふれることにより、伝統文化のよさを知る。
- ◎地域在住の講師の指導により、わが国古来の芸能、武術、遊び等に親しみ、そのよさを知る機会とする。
- ◎地域在住の伝統文化の指導者を発掘する。

■すずめ踊りを踊ろう (3, 4年生対象)

- ・郷土仙台に藩政時代から伝わる「すずめ

踊り」を踊ることをとおして、仙台の歴史や伝統を知る。

- ・教えていただいたすずめ踊りを、地域のイベントで披露し、地域の方との交流を図り、地域の一員としての自覚を育てる。

■なぎなたを体験しよう

- ・地域在住の講師の指導により、なぎなたを体験する。
- ・日本古来の武術であるなぎなたの作法を学びそのよさを知る。

■茶道に親しもう・書きぞめをしよう

- ・地域在住の講師の指導により、茶道や書道に親しむ。
- ・日本伝統文化に関心を持たせる機会にする。

(3) 放課後や休日の学習支援

- ◎共働き家庭等により、帰宅後の学習環境に恵まれない子どもへの学習支援のあり方を探る。
- ◎子どもたちの興味・関心に基づくプログラムを組み、自発的な学習活動を促す。
- ◎自発的な楽しい学習活動を通して、長期休業中の地域における学習支援と課外学習活動のあり方を探る。

■まなびのひろば～算数すいすい

- ・火曜日と金曜日の放課後を中心に、鶴巻小学校の1教室を開放し、主として算数の学習支援を行う。
- ・学習アドバイザーにより、個々の子ども



の能力に合わせた少人数のきめ細かい学習支援を行う。

- ・学級担任とも連携し、帰宅後学習環境に恵まれない子どもにも積極的に声をかけ、学習の場を提供する。

■夏休みおもしろ教室・冬休みおもしろ教室

- ・鶴巻小学校の教師の協力を得て、普段の学校の授業とは一味違った、鶴巻小の教職員を講師とする「講座」を提供する。
- ・楽しい学習活動を通して、長期休業中の地域における学習支援と課外学習活動の在り方を探る。
- ・「リコーダーを楽しもう」「やさしい囲碁教室」「自然素材を生かしたクラフト作り」「楽しい百人一首」「凧をつくってあげよう」など

■パソコン教室

- ・鶴巻小学校パソコン室を使用して、鶴巻小教員、地域在住のインストラクターの協力を得て、パソコン教室を開く。
- ・情報モラルも重視し、ツールとしてのパソコンの正しい使い方を考えさせる。
- ・季節に応じて暑中見舞いや年賀状をつくる。

(4) 地域における子育て支援

◎児童民生委員の協力の下、子育て中の母親同士が交流し、子育て上の不安や悩みを話し合う場を提供する。

◎地域の児童民生委員、ボランティアと連携

し、地域における継続した子育て支援の場とする。

■子育てサロン（未就学児の母親対象）

- ・毎月1回実施する。
- ・小さな子どもを抱えての長距離の移動は大変なので、より地域に密着した活動を目指すために、鶴巻小学校区内2箇所のコミュニティ・センターで開設する。
- ・児童民生委員による子育て相談、ボランティアによる子供同士の交流などを中心に構成する。

(5) 鶴巻児童館との連携事業

◎帰宅後や休日の児童の安全な居場所を提供するために、鶴巻小学校地内に新設された鶴巻児童館と積極的に連携し、運営に当たる。

■けん玉を楽しもう（会場：鶴巻児童館）

- ・地域在住の日本けん玉協会公認の指導者の指導の下、けん玉のいろいろな技に挑戦する。
- ・日本の伝統的な遊びの楽しさを味わう。

■リトミックを楽しもう（会場：鶴巻児童館）

- ・地域在住のリトミック指導者の指導によりリトミックを楽しむ。



子どもたちが作った
教室の看板

「ただいま〜。」「今日、何するの?」「ぬりえしたいんだけど。」子どもたちは笑顔で跳ねるように教室にやってきます。子どもが好きで子どもと一緒にいたい・子育て一段落の仲間が「子どもたちのために」と歩き始めた「やしおキッズ」。原動力は「楽しかったね。」「また来るね。」の声でした。

9月19日 第1回教室 「なふだづくり」
参加児童 76人 スタッフ 4人

カードにシールや折り紙、型抜きを貼ってラミネート・・・個性あふれる名札が出来ました。初めて会うメンバーにみんなちょっぴり緊張していたね。

名札・看板・マグネット・クリスマスリース・プレゼントBOXなどなど製作はたくさんやりました。

教室で使うもの、行事に使うものはできるだけ自分たちで作ることを心がけました。1M×4Mのイベント用の看板を分担し貼り絵で文字を書いたり、低学年が作った折り紙を高学年が貼って仕上げたものもあります。

小さなことでもいい、何らかの形でかかわり合うことで「自分のしたことが誰かの役に立っている。」

「自分のやったことを誰かが喜んでくれる。」という実体験を少しでも多く持って欲しいと

開催地：宮城県仙台市青葉区芋沢

利用施設：仙台市立川前小学校

開催日：月・水・木曜日

開催回数：56回

参加者：登録者数116名、年間延べ2414名

指導者：登録者数6名、年間延べ425名

主な活動：製作活動・囲碁教室・陶芸教室・すずめ踊り教室等

教室の特徴：学校での縦割り活動をいかしながら、地域の大人や中学生と交流を深め「地域の一員」という気持ちを育んで行きたいと考えています。

願っています。

10月18日 囲碁教室開始

講師 A団地2丁目 Kさん

「地域講師による教室を開催したい。」その時1番に協力して下さったKさん。道具が揃わないキッズのために、各方面から眠っていた道具を借りてきて下さいました。

「今の子って囲碁するかな?」「男の子少ないけど大丈夫かな?」スタッフの心配をよそに、はまったのは女の子。ランドセルを置くと一目散に走って行きます。教室最後のメッセージカードに「この次は絶対、私が勝ちます!」の決意がありました。

地域の方とのふれあいを考えたとき、運営スタッフ以外どのような形が考えられるか・・・? その方法が地域講師による教室開催でした。「子どもたちのために」と快く引き受けて下さった方々のお陰で今年度は定期開催の囲碁教室、親子参加の陶芸教室を実施することが出来ました。

12月1日 地域で輝く学校づくり

かわまえフェスタ2007参加

やしおキッズブース

活動紹介配布

活動紹介映像放映



保護者作成品の販売

保護者の方々、地域の方々に「やしおキッズ」を知ってもらいたい。できれば参加してもらいたい。

学校とPTAの共同開催行事に参加したのはそのような理由からでした。

フェスタのメイン看板、入り口看板作成を請負い、子どもたちと取り組みました。保護者の方々に作って頂いた祝い箸、コースター、お年玉袋の台紙には活動紹介やスタッフ募集を印刷。当日は子どもたちが入場者へ活動紹介を配り、教室風景の映像の前で保護者の製作品を販売しました。金額にすればわずかですが自分たちで生み出したお金。何らかの形で社会や地域に使い、「地域の一員」としての自覚や、感謝の気持ちを自分に出来ることで返す経験に結びつけて行きたいと思います。

12月25日 クリスマス会
参加児童 78人、参加保護者 23人
スタッフ 57人（中学生を含む）

キッズの一大イベントクリスマス会。当日は学校側のご好意で冬休み中の校舎を開放していただき、オリエンテーリングを実施。異年齢のチームを引率してくれたのは卒業生のお兄さん、お姉さんたち。子どもたちが作った問題カードを探し、無事に全員時間内にゴール。張

り切って中学生が答えた場面もご愛嬌。来年、キッズの卒業生がスタッフとしてかかわってくれるのが何より嬉しいプレゼントかな。

地域の一番身近な先輩、中学生にボランティアをお願いしたのは、大学生が集まらないための苦肉の策でした。中学校に相談したところ快くお引き受けいただき、生徒会、JRCを中心にメンバーを募ったところ募集人数に対し希望者が多く参加出来なかった人もいたという報告。今時の中学生も捨てたもんじゃない。きっかけや機会があれば、やれることがもっとあるはず・という思いが強くなった一日でした。

最後に

「あっ、キッズのAさんだ〜！」
その一言でBくんは、Aさんにとって特別な一人になります。

「そうだよ、Bくん気をつけて帰るんだよ、風邪ひかないようにね。」

この一言でAさんはBくんの特別な一人になります。

自分を見てくれている、気にかけてくれる人がいる・・・そんな小さな幸せを地域全体で共有できたら、社会はもっと優しくなれるはず。

そんな大きな願いを胸に 小さな幸せを発信続ける「やしおキッズ」でありたいと思います。

仙台市放課後子ども教室モデル事業を終えて

私たち「学校と地域の融合教育研究会（融合研）」では、平成17年度・18年度の2年間、「地域子ども教室推進事業」の委託を受け、全国35か所の子ども教室を展開して参りました。学社融合の理念のもと、各地で実践の成果をあげることができ、平成19年度から後継事業として創設された「放課後子どもプラン」においても、多くの子ども教室が活動を継続しております。融合研としても、これを機に内部に新しい組織として「子ども教室部会」を新設しました。

冒頭の山川由紀子実行委員長の挨拶にも紹介されていたように、融合研の副会長、相談役として活躍されていた故庄子平弥さんの声かけをいただき、「放課後子ども教室」の望ましい姿を検証するために、仙台市内の7か所の教室において「仙台市放課後子ども教室モデル事業」に取り組んできました。

モデル事業の成果や課題を見極めるために、各教室に参加した子どもたち、保護者、関係者を対象にアンケート調査を行いました。その結果については、資料1をご覧ください。また、1年間の実践を振り返り、今後の取り組みに生かす目的で、総括会議を開きました。そこで話し合われた内容については、資料2にまとめてありますので、ご覧ください。

「放課後子ども教室」は、子どもたちにとって、安全で楽しい放課後の居場所となり、活動に参加したほとんどの子どもたちに喜んでもらえたことが明らかになっています。また、保護者の多くが、安心して子供を活動させることができ、しかも家庭や学校では与えられない新たな経験をさせられる場所として認めていることも調査結果から分かってきました。さらに、地域の方々にとっては、未来を託すかけがえのない子どもたちを健やかに育む手助けができることで、自分自身の生活を充実させる有意義な活動になっていることが分かりました。正に、地域の一員として、自己実現を果たしながら、住みよいまちづくりに貢献する喜びを感じることで、意義深い取り組みになっています。

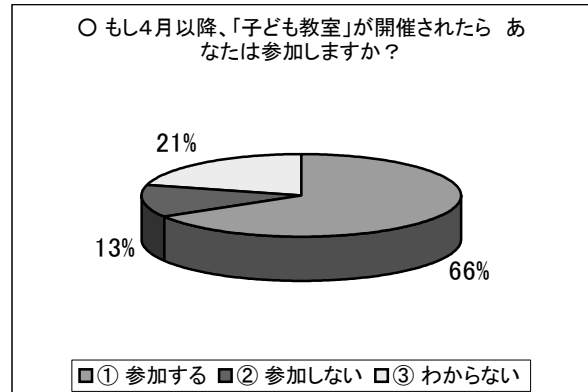
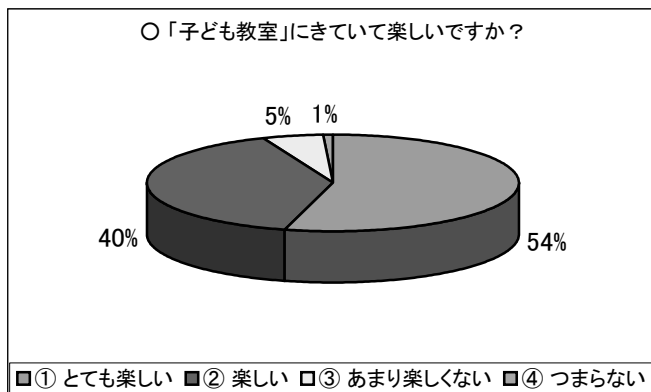
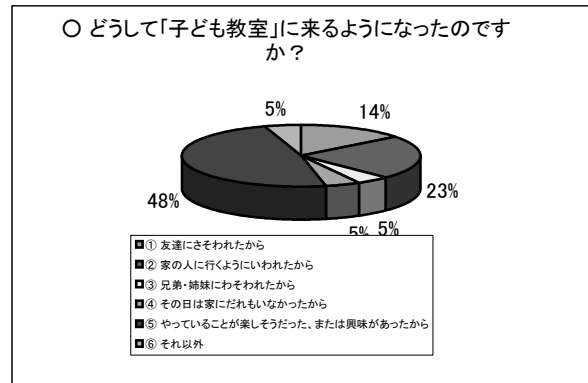
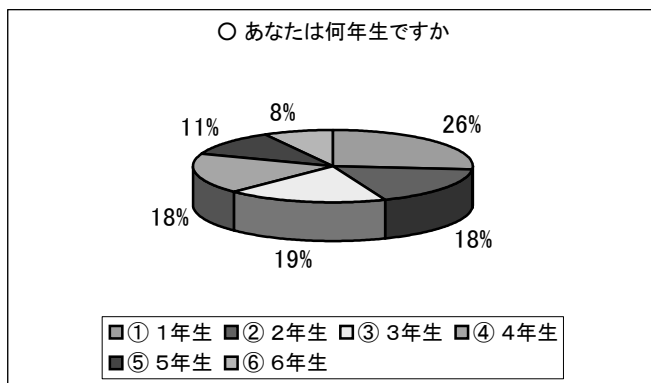
一方、学校や教職員にとっては、通常の授業や活動を越えた取り組みということから、地域の方々とのより良い協働関係を構築するまでには至っていない現状があります。しかし、変化の激しい社会の中で、自立し、たくましく生き抜いていく子どもたちを育てていくには、社会全体、地域全体で、教育を進めていく必要があります。こうした教育の充実を図るためには、学校の教育活動を理解し、教職員の取り組みを応援し、支えてくれる地域の人々の協力が不可欠です。「放課後子ども教室」の取り組みは、学校と地域をしっかりと結びつけていく上で大いに効果を発揮してくれるものと言えます。

融合研では、学校と地域が一体となり、大人も子どもも豊かに生きていける地域づくりを目指して、学社融合の理念に基づき全国各地で様々な実践を積み重ねてきました。「放課後子ども教室」事業は、私たち融合研の活動を充実・発展させる上でも大いに役立つものであり、今後も重点的に取り組んで参ります。

融合研として、組織を挙げて協力してきた「放課後子ども教室モデル事業」ですが、この活動報告書が全国で日々実践している方々や、これから活動を始めようとしている方々の参考になれば幸いです。

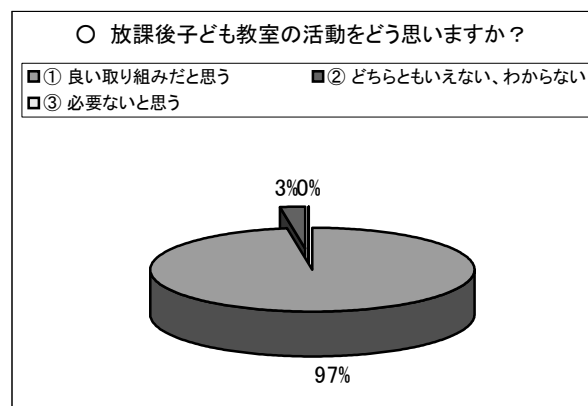
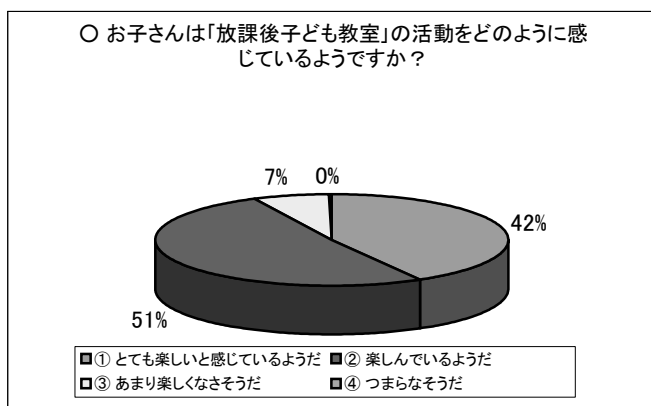
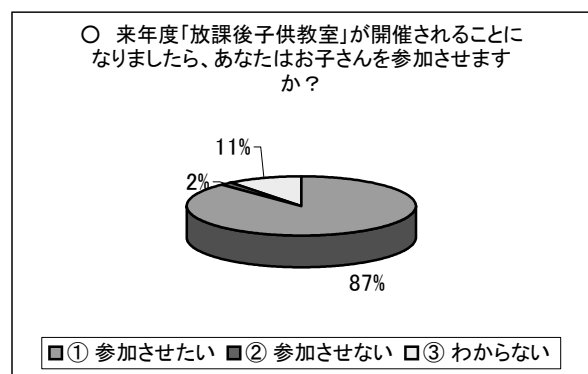
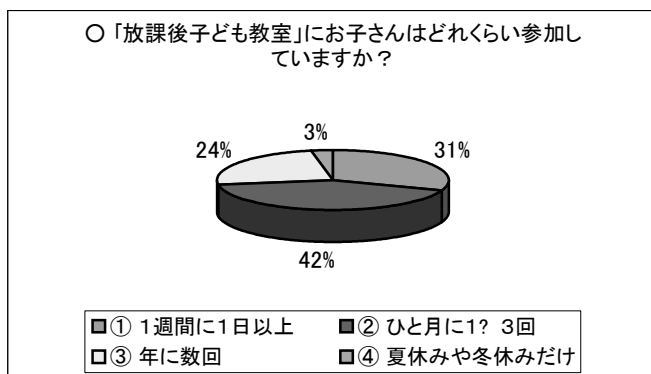
学校と地域の融合教育研究会 (<http://yu-go-ken.net/>)

【資料1】 「平成19年度仙台市放課後子ども教室モデル事業」に関するアンケート
【子ども用】

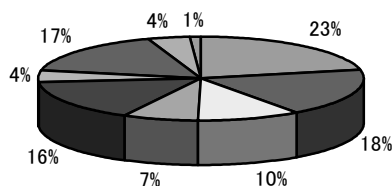


※ 子どもたちのアンケートからは、活動内容の楽しさに惹かれて参加した子どもが多いことが分かった。参加した子どもの90%以上の子ども達が楽しいという感想を述べている。ただ、来年も参加したいと答えた子どもが70%という結果だったが、その差がどこから来ているのか検証が必要だと考えている。

【保護者用】



○ 放課後子ども教室を良い取り組みだと思われるのはどうしてですか？

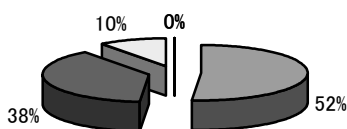


- ① 色々な体験活動ができるから
- ② 安心して活動できるから
- ③ 他の学年の子どもと交流できるから
- ④ 地域の大人と交流できるから
- ⑤ 家や学校でできない体験ができるから
- ⑥ テレビゲームなどで遊ぶ時間が減るから
- ⑦ 子どもが楽しんで参加しているから
- ⑧ 地域で子どもを見守る雰囲気ができるから
- ⑨ その他

※ 活動の意義を認めているという保護者が、90%を超えた。子どもたちが、安全な環境の中で、色々な人と交流したり、様々な体験ができたりすることが、大きな魅力となっているものと思われる。

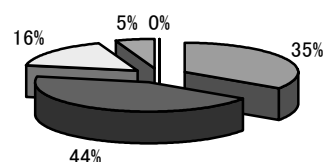
【関係者用】

○ 地域の子ども教室に対する意識が高まった



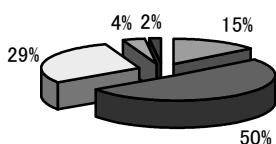
- ① とてもそう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ まったくそう思わない

○ 地域の中に友人・知人が増えた



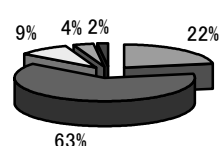
- ① とてもそう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ まったくそう思わない

○ 地域の子どもに声をかけられたり、遊んだりする人が増えたと思う



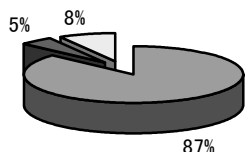
- ① とてもそう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ まったくそう思わない

○ 様々な面で学校と地域の協力・連携がすすんできたと思う



- ① とてもそう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ まったくそう思わない

○ 来年度「放課後子ども教室」が開催されることになりましたら、ご協力いただけますか？



- ① 協力したい
- ② 協力できない
- ③ わからない

※ 子ども教室の活動に協力した地域諸団体の方々やPTAの方々へのアンケートからは、この活動が地域における人と人のつながりを深める上で大きく寄与していることがわかる。地域の子どもたちとの関わりにとどまらず、子どもを通して大人同士がつながっている姿が見えてくる。一人一人の自己実現を果たす生涯学習、地域を支えるコミュニティの充実につながっていることがわかる。今後も協力を約束している人が90%近くも居ることが、それを雄弁に物語っている。

アンケート回答数

児童:398名、保護者:351名、関係者:55名

【資料2】 「仙台市放課後子ども教室モデル事業総括会議より」

平成19年度、文部科学省から委託を受けて、仙台市内の7箇所で行った仙台市放課後子ども教室モデル事業（以下：モデル事業）に取り組んだ。実施期間は1年間（実質7ヶ月）と短い期間ではあったが、その実践を通して今後の活動の指針となる成果や課題も明らかになってきた。以下は、各教室の代表者が集まり、1年間の取り組みについて話し合った総括会議で話題になった内容である。

1 放課後子ども教室の実践を通して見えてきたこと

(1) 子どもたちの姿から

①楽しそうに活動している子どもが多い

- ・参加する子はみな楽しみにしている
- ・活動内容を選ばず参加する子、内容によって参加を決める子、いろいろ
- ・大人達が自分たちに関心を持つことを強く望んでいるのがわかる

②子ども同士、あるいは大人と子どもとの自然な交流が定着してきた

- ・遊びだけでなく、宿題なども一緒にやる子どももあわられてきた
- ・大人と一緒に遊ぼうとさそってくる子ども達も多い

③いろいろな年代の大人達との交流を経験している

- ・先生や親以外にも、自分たちを見守ってくれる大人がいることを感じている
- ・地域の方々に書道やビーズなど様々なことを教えてもらえる場所と思っている

(2) 大人たちの関わり方

①大人たちが熱心に活動している

- ・保護者より地域の大人達の方が熱心である。若い人は忙しいのかもしれない
- ・関わりをもつと、大人も楽しいし、ネットワークも広がる
- ・先生方が参加してくれると、地域のモチベーションも高まる

②地域の方々が活動をよく理解してくれた

- ・ボランティアとして多くの方が参加してくれるなど、地域の方々の協力は大きく、心強い
- ・地域ぐるみで子ども達を育てる意識も高く、スタッフの活動を高く評価してくれている
- ・継続的な活動を維持するために、地域が助成をしてくれた

③保護者の意識に差がある

- ・子どもを預けっぱなしの保護者が多く、スタッフの対応に苦情をぶつけるケースもあった
- ・保護者会を開くが、集まらない
- ・子ども教室に行っていることを認めているが、どんなことをやっているか分からない

(3) 学校や関連施設のとりえ方

①学校は子ども教室にあまり理解を示していない

- ・学校との取り決めの内容が、一般の先生方に伝わっていない
- ・欠席の連絡等を担任に子どもが伝えたことで、激しく叱られた
- ・一般の先生方の意識が薄く、なかなか理解してもらえていないように思う

②学校のとりえ方に差がある

- ・保護者より地域の人たちが多く活動していることから、地域協力を高く評価している

- ・活動を覗くとか、スタッフに声をかけるとか、そうした関わりがほとんどない学校もある
 - ・一貫して地域が主体となって運営していることが、逆に学校の関わりを遠ざけている
- ④市民センターや地域団体が協力してくれている
- ・地域の中から、活動への協力者を紹介してくれている
 - ・地域の諸団体の方々は、活動の様子を聞いてくれたり、話題にしてくれる

2 今後の課題とその対応について

(1) コーディネーターの発掘と育成

① コーディネーターの重要性

充実した活動をしている子ども教室には、力量のあるコーディネーターが必ず居る。客観的な立場から、協力者や協力団体との調整ができる人が必要。

② コーディネーターの育成

活動している方や協力してくれている人たちに対して、研修の機会を設け、将来コーディネーターとなり得る人材の育成を図る

(2) 広報と人材確保

① 活動を知ってもらう工夫

- ・「〇〇教室通信」などのお便りを発行したり、学校のホームページに掲載したり、多くの方々に活動を理解してもらう
- ・新入学保護者会やPTA総会の場で、時間をもらって活動紹介を行う

② 責任の所在を明確化

・預けっぱなしで、子ども教室の活動に協力しようとしなない保護者も増えている。万が一けがをしたような場合でも、子ども教室スタッフが一方的に責められないような工夫が必要である。活動の趣旨を保護者へ説明したり、承諾書を提出してもらうなど、細やかな対応の検討が求められる

③ 活動スタッフや協力者の確保

- ・これまでの人と人とのつながりを生かし、広く人材を求めていきたい
- ・子どもだけでなく大人も自由に参加できるようにするとか、誰にでもできる簡単な仕事から手伝ってもらい、感謝と賞賛を与えることが大切
- ・活動がおもしろいと感じたり、これならできそうだと思うことも肝要。何か特技のようなものがないと・・・と悩む必要はないし、誰でも関われる（助手等）ことを伝える

(3) 学校・教師の理解促進

① 学校の現状

- ・ただでさえ多忙な学校や教師に、意義あることと理解してはもらえても、新たな取り組みを導入することには、強い抵抗感がある
- ・放課後子ども教室事業に対する理解も乏しく、良い協調関係を構築するには時間と手間がかかる

② 学校との良い関係づくり

・放課後子ども教室を進めることで、学校や教師が恩恵を被ることは何かを明確にする学校に地域の方々や保護者が何度も訪れることで、日々の教師の多忙さを理解してもらう

機会となる。最近、増加傾向にある理不尽なクレームなどがあつたとき、教師や学校の味方になってくれている事例などを紹介することが必要である

- ・先生方との情報交換の場を工夫する。定期的な会議を行ったり、学校給食を一緒に食べながら情報交換を深めていく方法を見つけていく
- ・学校や教師は、日常の教育活動以外のことを取り入れにくい環境にある。日々の活動だけでなく、新しい試みを取り入れるときなどは、予め相談することが有効である

(4) 事業の充実・発展のために

①時間をかけた取り組み

- ・理解者を増やし、協力体制を作り上げて行くには、やはり時間がかかる。軌道に乗るまでに3年はかかると見ていた方がよい

②支援体制づくり

- ・町内会など、地域の諸団体の理解を得ることが肝要。保護者は、地域住民でもあることを利用して、関連する各団体へできるだけ協力要請を行う必要がある
- ・各団体の会議やPTAの会合、さらに町内会の回覧等を通して、放課後子ども教室の活動を周知するように努めることでより活動への理解が深まる

③地域コミュニティづくり

- ・放課後子ども教室の活動を通して、地域に住む大人たちのつながりが広がっていく。このことが、地域コミュニティを充実させ、引いては地域の教育力を高めることにつながっていく

3 今後の活動について

(1) 連携組織の継続

①情報交換の場の継続

- ・メーリングリストによる情報の共有を図る
- ・モデル事業で立ち上げたホームページを継続して使用し、情報提供を行なう

②共同事業の開催

- ・コーディネーターやスタッフの資質向上を図るために、協同で研修会を実施する

(2) 新たな事業への参加

①仙台市放課後子ども教室事業への参加

- ・平成20年度に仙台市が実施する放課後子ども教室事業に参加する。ただし、放課後児童クラブを包含した形で実施するという条件がついており、3箇所の教室が参加することになっている

②学校支援地域本部事業等への参加

- ・地域における協力体制もできてきていることから、これまでの実績を無駄にすることなく学校支援地域本部事業等への参加など、モデル事業で培ったノウハウや人的資源を有効に活用する手立てを講じていく

平成19年度 仙台市放課後子ども教室モデル事業報告書

発 行 仙台市放課後子ども教室モデル事業実行委員会

住 所：〒980-0821

宮城県仙台市青葉区春日町2-1

せんだいメディアテーク7階メディアアシスト内

電 話：022-723-0892

FAX：022-723-8966

メール：byun@alto.ocn.ne.jp

H P：http://www2.zundanet.co.jp/kodomo/

発行日 平成20年3月